

APSAO 2018参加印象記

*¹国立循環器病研究センター研究所生体医工学部, *²関西大学化学生命工学部

古屋敷 賢人 *^{1,2}

Kento KOYASHIKI



アジアパシフィック人工臓器学会 (Asia-Pacific Society for Artificial Organs, APSAO) の年次大会 (Annual Conference) が、2018年10月26日に台湾の台北市で開催された。会場である Cheng Hsin General Hospital は市の北部に位置しており (図1)、大会長は同病院の Jeng Wei 先生が務められた。本大会は、朝8時から夕方17時半まで開催されており、発表件数は招待講演が12件と一般講演が7件、ポスター発表が7件であった。セッションは全て1つの会場で行われ、Coffee Breakの時間が午前と午後に分けられたため、和気藹々とした雰囲気の中で、白熱した議論が交わされていた。学生である筆者にとって国際学会への参加は今回が初めてであり (図2)、また、初の渡航体験であった。そのため、筆者の拙い英語で発表ができるか非常に不安であったが、発表後に Moderator を務められた Fan Yen Lee 先生から研究に関して質問をいただく機会を得た。

筆者自身は材料工学系の学科に所属しており、材料設計と小動物実験を中心とした研究テーマであったため、臨床試験に重きを置く今回の学会は非常に印象的だった。特に興味を持ったのは、Artificial Retinas Sessionでの Wen Tai Liu 先生の発表である。Wen Tai Liu 先生は人工網膜の開発について発表されており、網膜にデバイスを取り付けることで視力を改善させるという研究内容であった。近い将来、視覚障害者に簡単なデバイスを埋め込むだけで、健常者と変わらない視力となる日が来るのではないかと感じた。

多くの発表を聴講させていただいたが、残念ながら筆者の英語力では理解できない場面が多々あった。しかし、普



図1 Cheng Hsin General Hospital内の学会発表会場



図2 発表中の筆者

段は英語での議論を耳にする機会がないので、今回の学会は大きな刺激となった。このような場所で、様々な国の方と英語で議論できるよう成長したいと感じた。

大会前日には Welcome Dinner に参加させていただいた。病院近くのレストランが貸し切れ、各国の参加者と楽し

■ 著者連絡先

関西大学大学院理工学研究科化学生命工学専攻化学・物質工学分野生体物質化学研究室
(〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35)
E-mail. k691735@kansai-u.ac.jp

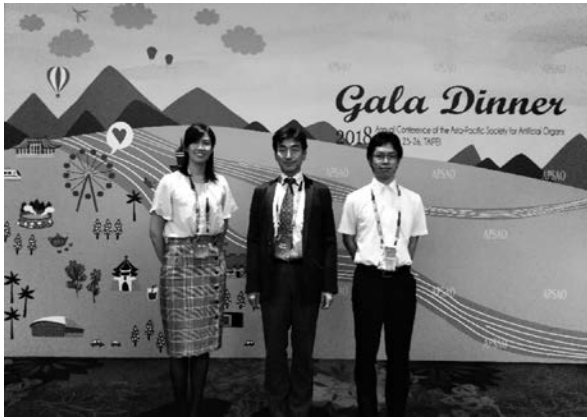


図3 Gala Dinnerにて
左から徐于懿先生，山岡哲二先生，筆者。

いときを過ごした。会場には即興で似顔絵を描いてくださるブースがあり，描いていただいた似顔絵で先生方と盛り

上がった。また，大会当日の晩に開催されたGala Dinnerにも参加する機会を得た(図3)。温泉で有名な北投のホテル会場が貸し切られ，豪華な食事を堪能した。途中，美空ひばりの『川の流れのように』が演奏されたときには，会場一体となったの大合唱となったのには驚いた。食事の最後には，それぞれ演奏とともにダンスを踊ることが定番になっており，日本での学会との雰囲気の違いを感じた。

最後になりましたが，貴重な機会を与えてくださいました指導教員の関西大学の平野義明先生，国立循環器病研究センター研究所生体医工学部の山岡哲二先生，神戸裕介博士，徐于懿先生とその御家族をはじめ，多くの先生方，関係者の皆様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

本稿の著者には規定されたCOIはない。